

DXの実現に向けた ビジネスローンチ判断Frameworkの提案

坂口 聡

DXにおける企業課題

日本はIoTに関する国際競争力が高いとは言えない状況。特に過去成功してきた企業においてはあらゆるしがらみがあってできない。アイデアや開発力、モチベーションはあるがPoCで終わってしまう。スマートエスイーで、デジタルイノベーションデザイン手法を中心に学んだが、アイデアを世の中に問っていくような迅速な判断が必要。

手法・ツールの適用による解決

デジタルイノベーションデザイン手法
IoTやAIを活用したイノベーション製品・サービス・ビジネスモデルを工学的に設計する手法

手順
Step1: ビジネスモデルにおける顧客と提案価値の明確化 → 価値提案キャンバス
Step2: データと提案価値の関係の明確化 → SCALグラフ
Step3: オープン&クローズ戦略の設計 → オープン&クローズキャンバス
Step4: IoTイノベーションに特有のリスクマネジメント → プロジェクトFMEA

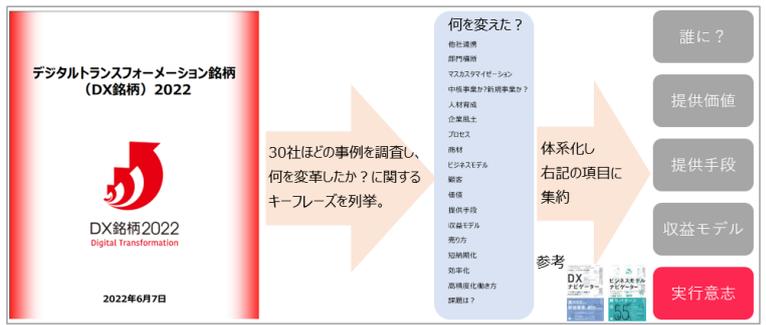
アイデアが思いついた段階で深めていくメリットがあるか？何が不足しているか、を誰でもがクイックに判断するような既存のツールを補強するツールを提案

Framework作成のプロセス

要件定義

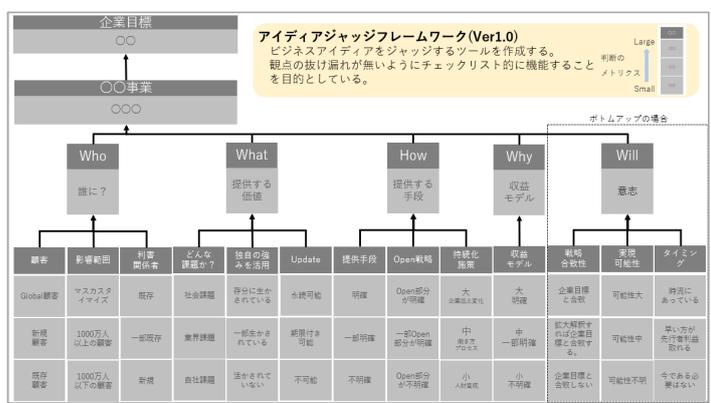
- 簡単**
→質問の数はなるべく少なく。12個程度を目標とする。
- 誰でも使える**
→ビジネスアイデアに対して、ビジネス初学者でも企業の判断と6割程度一致する判断ができる。
- 短時間でクイックに使える**
→紙一枚程度の規模感
- 現状を評価ができる（機械的な迅速判断のため。）**
→規模感を評価できるようにしたい。

現状分析と体系化



マジックトライアングルの項目に企業内でのボトムアップ事例への対応事項がないと考え独自の軸として“実行意志”追加した。

提案Framework



Frameworkの適用評価

有効性、適応可能性を評価する。学生を対象に企業概要、ビジネスアイデア2種をインプット。2Grに分けて片方にFramework概要をインプット。企業で準備した正答に対する一致度を評価。

Group	Framework概要と上記情報	上記情報のみ
Group1	67%	46%
Group2	45%	30%

Gr1のアイデアAへの正答率が67%と目標を達成した。アイデアBに関しては目標を達成には到達しなかった。適用可能性はGr1の正答率が2に対し向上していることが確認できた。

今後の取り組みについて

評価結果から、一定の評価は得たものの評価者へのインプット情報の整理やフレームワーク内の言葉の曖昧さを改善する必要があることが分かった。本Frameworkを実現場で活用しさらにブラッシュアップを進めたい。